

【2】 認知症について

< 認知症 >

「脳の病気が原因で日常生活に支障が生じている状態」であり、誰もがなり得るものです。高齢になるにつれて発症する可能性が高くなり、今まで当たり前に行っていたことが段々に難しくなります。

〔 認知症のタイプ 〕 代表的なのは4つ

① アルツハイマー型認知症

もの忘れなどの記憶障害が主であり、やがて全般的な認知機能の低下に至る

② レビー小体型認知症

見えないものが見えたり、すり足歩行やぎこちない動作(パーキンソン症状)がみられる

③ 血管性認知症

脳梗塞などが原因で発症
身体疾患や神経症状の合併がみられる

④ 前頭側頭型認知症

同じことを繰り返す
興奮しやすく性格変化が見られるなどの症状がある

〔 認知症の症状 〕 大きく分けて2つ

① 中核症状

脳の神経細胞が壊れることによって起こる症状
⇒ 記憶障害 見当識障害
理解力・判断力低下 など

② 行動・心理症状(BPSD)

周囲の人との関わりの中で起こる症状
⇒ 落ち込み 不安 興奮
焦り 怒りっぽさ など

誰にでも起こり得る

環境の変化やストレス
などで起こり得る

〔 進行度 〕 大きく分けて4つ

認知症は、進行度により症状などが大きく異なります。

— ① 変化の起き始め(気づきの時期) —

認知機能が低下した状態ではありますが、認知症ではなく、認知症の前段階とされます。生活の中で、もの忘れや何度も同じことを聞くなどの様子が見られますが、[\[9\] 社会参加や地域での交流\(P14\)](#)を持つことで、進行を遅らせることも期待できます。軽度認知障害(MCI)と診断されたすべての人が認知症になるわけではなく、回復していく可能性も十分にあるため、[\[6\] 早期受診、早期治療\(P10\)](#)が大切とされています。

— ② 見守りが必要(発症した時期) —

症状はあっても、(見守りがあれば)日常生活は自立しています。しかし、日付の感覚や金銭などの管理が段々と難しくなるため、周囲に支援者を見つけて協力を得ることで、地域で暮らしやすくなります。これからの進行に備え、[\[10\] 生活環境を整え\(P17\)](#)たり、[\[11\] 利用できるサービス\(P21\)](#)を把握しておくが良いです。

— ③ 日常生活に手助けが必要な時期(症状が多くなる時期) —

日常生活に手助けや介護が必要となります。1人で外出すると帰宅できないことが考えられるため、地域で過ごすためには見守りのサービスを利用することも検討されます。[\[10\] おかえりサポート\(P17\)](#)に登録したり、[\[10\] GPSの端末\(P17\)](#)を身につけることで、行方不明時に早期発見につながる可能性があります。また家族は、本人の世界観を理解する必要があるため、[\[9\] 認知症カフェ\(P14\)](#)などに出向いて、同じ境遇の人と話したり、周囲にアドバイスをもらおうと良いです。

— ④ 常に介護が必要(様々な症状が合併する時期) —

日常生活で常に介護が必要となります。[\[11\] サービスを利用\(P21\)](#)し、本人や家族が暮らしやすくなるように生活環境を整えることが大切です。本人は、自分の要求を上手に表現できないもどかしさがあるため、周囲はそれを理解し、家族も介護疲れの息抜きが必要であるため、サービス利用時などに自分の時間を作るなど、1人で抱え込まずに周囲を頼ることが必要となります。

< 若年性認知症 >

認知症は高齢者になるもの、と考えられることが多いですが、65歳未満で発症するものがあります。若年性認知症と呼ばれ、初期症状が分かりにくいのが特徴です。疲れによる症状であると勘違いをされたり、他の病気として治療をされてしまい、発症から診断まで時間を要する場合があります。

働く世代(40代~)から徐々に増えるため、家庭よりも職場で異変に気付く場合が多いです。本人はもちろん、家族や職場の人が違和感を持った時には、**【6】病院受診(P10)**を本人に勧めることも必要です。

栃木県には、若年性認知症に特化した「若年性認知症支援コーディネーター」を配置し、電話相談や個別支援を実施しているところがあります。以下までお問い合わせ下さい。

若年性認知症の相談窓口	電話番号
毎週土曜日 13:30~16:00	028-627-1122



交流の場や利用できるサービスなどを、

【3】認知症進行度別 早見表(P7)にて

分かりやすく示してありますので、ぜひご覧になってください。